



エコアクション21  
認証・登録番号 0003337

# 環境活動レポート 2015

〔対象期間：2014年4月1日～2015年3月31日〕



多くの世代が集う「環境活動の場」のイメージ図



九州林産株式会社

発行日：2015年6月18日

# 目 次

1	ご挨拶	1
2	会社概要	1
3	環境経営の推進	
(1)	環境方針	2
(2)	推進体制	2
(3)	役割・責任・権限	3
(4)	環境目標、2014年度実績・評価、中期目標	4
(5)	環境負荷の推移、2014年度の主な取組み・分析（全社共通項目）	6
(6)	マテリアルバランス	8
(7)	環境会計	9
4	森林管理事業における生物多様性への取組み（基盤づくり）	
(1)	ガイドラインの策定	10
(2)	「環境活動の場」の整備	10
(3)	環境活動の推進	11
(4)	九州電力社有林の適正管理	11
5	地域との環境コミュニケーションの推進	
(1)	「大分県小規模集落応援隊」への参加	12
(2)	施設管理を通じた環境コミュニケーションイベント	12
(3)	「林業の魅力を伝えるパネル展」への参加	13
(4)	その他の取組み	13
6	2015年度目標、活動計画	14
7	環境関連法規等の遵守状況	15
8	代表者による全体評価と見直しの結果	16
9	その他環境関連活動	
(1)	オフィスにおける日常的な取組み	16
(2)	緑を通じた地域社会への貢献	16
(3)	自然環境の保全	17
(4)	環境活動レポートの活用に向けた取組み	17
(5)	社内環境教育の展開	17

# 1 ご挨拶

「自然を守り、緑豊かな環境づくりを通して、社会に貢献します。」

当社は、この企業理念の実現に向け、森林管理事業・緑化事業を中心に、長年事業活動を進めてまいりました。

環境経営の一規範として取組みを開始したエコアクション21も、認証後6年が経過し、今では、オフィス・工場における環境負荷低減活動を通し、「当たり前前を当たり前と捉えず改善を図る」マインドセットが着実に形づくられてきました。

2013年度には、エコアクション21と事業活動の一体化を目指し、当社事業と密接に関連する「生物多様性への取組み」を接点と捉え、以降、当社の経営ビジョン体系の明確化や環境方針の見直しを手掛け、社会への提供価値の明確化を図ってまいりました。

こうした検討プロセスの積重ねが提供価値に対する感度を高めており、当社が育成管理を行う九州電力社有林において従来から関わってきた「環境活動の場」の整備に当たっても、自然景観や生物多様性に配慮した復元を試みる事ができました。

社会ニーズに応える環境価値の提供を追求する道程は試行錯誤の連続だとは思いますが、今後も、エコアクション21を通して得た“気づき”を基に、環境経営を推進してまいります。

2015年6月

代表取締役社長 長 宣也

# 2 会社概要

## ■ 沿革

- ・1949年に大分県くじゅう地域を中心とした九州電力社有林（水源涵養林約4,447ha、ヤブオクドーム約630個）の育成管理・自然環境保全を目的に創業
- ・1965年からは、九州電力グループの緑化対策を中心に官公庁や民間企業の工事、現在は、官公庁が所管する公園・農園の指定管理者も受託

## ■ 名称・代表者

九州林産株式会社  
代表取締役社長 長 宣也

## ■ 所在地

本店：福岡県福岡市南区野間3丁目7番20号  
事業所：九州7県に12事業所

## ■ 環境管理責任者及び担当者連絡先

責任者：総務部経営企画G長  
三木 孔  
担当者：総務部経営企画G副長  
大原雄二郎  
TEL：092-562-3014  
URL：<http://www.q-rin.co.jp>

## ■ 事業の規模（2015年3月31日現在）

	本店	林業部	事業所 (11箇所)	合計
従業員数 (人)	42	26	39	107
のべ床面積 (㎡)	1,895	2,980	1,048	5,923



### 3 環境経営の推進

#### (1) 環境方針

##### 【基本理念】

九州林産株式会社は、「自然を守り、緑豊かな環境づくり」という企業理念のもと、すべての事業活動において環境保全意識の重要性を認識し、持続可能な社会の構築を目指します。

##### 【基本方針】

###### 1 低炭素社会への貢献

低炭素社会の実現に向け、節電、節水、エコドライブ、低公害機械の活用等による省エネルギー・省資源化を推進し、事業活動に伴う温室効果ガス排出抑制に努めます。

###### 2 循環型社会への貢献

廃棄物の再資源化、伐捨間伐材などの未利用資源の有効活用等に取り組み、循環型社会の形成に貢献します。

###### 3 自然共生社会への貢献

事業活動により環境に与える影響を低減するため、生物多様性への配慮や化学物質の使用抑制などに取り組み、自然と共生できる社会の構築に貢献します。

###### 4 社会との協調

環境情報を積極的に公開し、ステークホルダーとの連携・協調により社会とのコミュニケーションを図ります。

###### 5 環境管理の推進

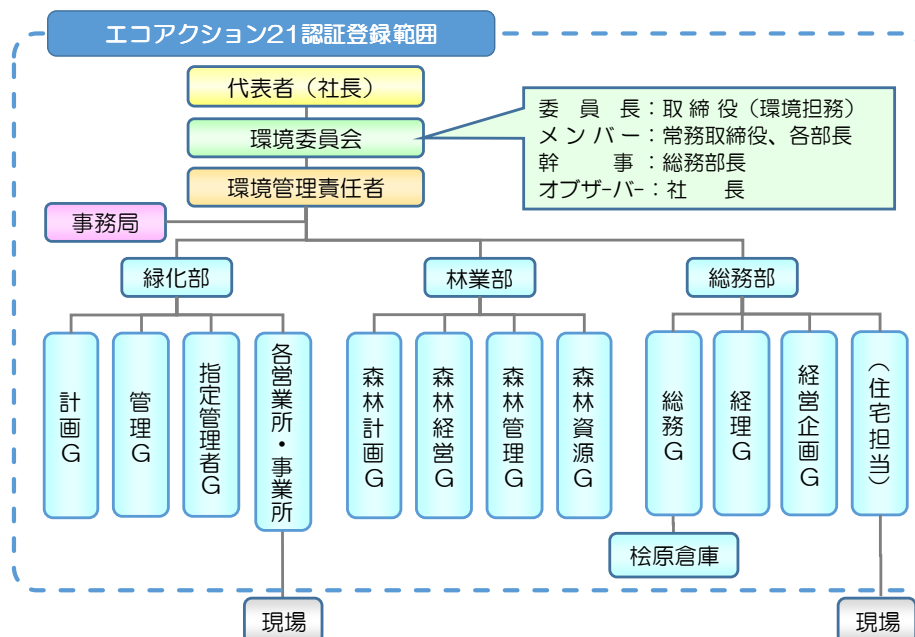
環境関連法規の遵守はもとより、環境関連情報の共有化を図り、全社一体となって環境マネジメントシステムの品質向上に努めます。

制定日：2007年12月14日

改正日：2015年3月20日

※今回の見直しは、環境への取組みの方向性(EA21 ガイドライン準拠)に関する表現を再整理したものです。環境方針に基づく環境目標や環境活動計画については、本方針に準拠したものとされています

#### (2) 推進体制



### (3) 役割・責任・権限

	内 容
代表者 (社長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 当社の環境経営の最高責任者</li> <li>② 環境管理責任者及び環境委員長の任命並びに環境委員会の設置</li> <li>③ 環境方針の制定・改正及び全従業員への周知</li> <li>④ 環境目標・環境活動計画の承認</li> <li>⑤ 管理に必要な資源（人・もの・金）の準備</li> <li>⑥ 環境活動レポートの承認</li> <li>⑦ 代表者による全体の取組状況の評価と見直しの実施</li> </ul>
環境委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 環境活動に関する基本方針・行動計画の審議</li> <li>② 環境活動実績の評価・見直し</li> <li>③ その他関連事項の審議</li> </ul>
環境管理責任者 (経営企画G長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 環境経営システムの構築・運用</li> <li>② 環境経営マニュアルの制定・改正</li> <li>③ 実施体制の制定・改正</li> <li>④ 全社における環境目標・環境活動計画の策定</li> <li>⑤ 全社における環境目標の達成状況及び環境活動計画実施状況の確認・評価</li> <li>⑥ 全社における問題点の是正処置及び予防処置の確認・実施</li> <li>⑦ 全社における環境関連法規等の取りまとめ・更新及び遵守状況の確認</li> <li>⑧ 環境教育・訓練の計画</li> <li>⑨ 外部からの苦情等の確認及び関連各所への周知</li> <li>⑩ 環境活動実施結果の代表者への報告</li> <li>⑪ 環境活動レポートの作成</li> </ul>
各 所	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 各所における環境目標・環境活動計画の策定</li> <li>② 各所における環境目標の達成状況及び環境活動計画実施状況の確認・評価</li> <li>③ 各所における問題点の是正処置及び予防処置の確認・実施</li> <li>④ 各所における環境関連法規等の取りまとめ及び遵守状況のチェックの実施</li> <li>⑤ 緊急事態への準備及び対応</li> <li>⑥ 各所における環境教育・訓練の実施</li> <li>⑦ 外部からの苦情等の受付・対応</li> <li>⑧ 「環境への負荷の自己チェック」、「環境への取組みの自己チェック」の実施</li> </ul>
事務局 (経営企画G)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① システム運用上の事務管理</li> <li>② エコアクション21に関する諸手続き及び窓口</li> <li>③ 環境管理責任者の補佐</li> <li>④ 各部門の計画及び実施状況の把握、実績集計</li> </ul>

#### (4) 環境目標、2014 年度実績・評価、中期目標

環境負荷低減活動の進展に伴い、取組みは高い水準での維持が確認されていることから、目標値については、現状の取組みレベルの維持・向上を基本とし、前年度の実績値に、今後予想される事業環境の変化などを織り込み設定しています。

これに加え、各所での改善好事例をイントラネットで紹介し「あと一步の改善」を後押しするなど、設定目標の実効性向上に努めています。

	全社共通項目	単位	2014			2015	2016	2017	
			目標	実績	評価※1	中期目標			
1 低炭素社会への貢献	二酸化炭素排出量	t-CO <sub>2</sub>	468	446	○	391	391	391	
	電力消費に伴うCO <sub>2</sub> 排出係数		0.612 (2012年度九州電力公表値を使用)			0.613※2 (2013年度九州電力公表値を使用)			
	電力消費量	MWh	363	338	◎	291	291	291	
	車両燃料消費率	km/ℓ	12.4	12.5	○	12.4	12.4	12.4	
	上水使用量	m <sup>3</sup>	970	917	◎	860	860	860	
2 循環型社会への貢献	一般廃棄物発生量 (紙類以外)	kg	2,300	1,759	◎	1,500	1,500	1,500	
	産廃リサイクル率	加工・工場	%	95	97.2	○	95	95	95
		現場	%	90	98.6	◎	95	95	95
	事務用品グリーン購入率	%	95	98.1	○	95	95	95	

※1 ○：目標達成項目、◎：目標比で5%を超える達成項目

※2 2015年度以降の電力消費に伴うCO<sub>2</sub>排出係数：公表値の更新に合わせ随時置換え

	主な個別項目	単位	2014			2015	2016	2017
			目標	実績	評価	中期目標		
3 自然共生社会への貢献	緑化工事受注件数	件	200	257	◎	200	200	200
	間伐材有効利用率	%	52	57	○	44※3	44	44
	FSC 材利用率※4	%	60	67	○	—	—	—

※3 間伐対象範囲の拡大に伴う見直し

※4 2015年度からは「間伐材有効利用率」に含み管理

(続き)

主な個別項目	2014		2015	2016	2017	
	目標		実績			
3 自然共生社会への貢献	希少種の 保全活動	定期的なデータ収集及びマッピングによる希少種の適正管理	適正管理を行うためのガイドラインを作成（生物多様性宣言は未実施）			(2014 年度目標を継続設定)
		事業における環境リスクの低減	林業部 各作業項目におけるチェックリストの充実・活用による生物多様性への配慮・対策の実施	生物多様性への配慮チェックリストを改正		
				緑化部	生物多様性配慮事例の蓄積・集約および発注者への提案可能性の検討・展開	
	化学物質使用量の削減	化学物質の使用にあたっては周辺環境への影響を最小限に留めるとともに使用する化学物質の種類についても代替物質の活用などにより極力 PRTR 制度対象物質の使用を抑制するよう努める。	機会を捉え、使用抑制に努めた。			(2014 年度目標を継続設定)
4 社会との協調	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境に関するコミュニケーションの推進（環境活動レポートをお客さまや協力会社へ配布するなど営業ツールとして活用）</li> <li>地域貢献環境活動の展開（甲突川左右岸緑地公園清掃活動ボランティアなどへ 92 名の参加）</li> <li>山林見学や体験学習の開催（韓国森林管理団体など 204 名の見学者を受け入れ）</li> <li>環境活動への積極的参加（松原の元気を取り戻す作業など 44 名の参加）</li> </ul>					
5 環境管理の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>更なる EMS レベルの向上に向け、内部監査（運用業務支援）を実施</li> <li>環境関連法規などの特定および遵守状況確認の確実な実施</li> <li>環境教育の実施（社内勉強会九林イノベーションスクールの定期的な開催）</li> <li>環境情報の共有化（社外情報の収集のため、九電グループ環境経営推進部会へ参加）</li> </ul>					

(5) 環境負荷の推移、2014年度の主な取組み・分析（全社共通項目）

	環境負荷の推移	2014年度の主な取組み・分析																																				
二酸化炭素排出量	<p>※CO<sub>2</sub>換算係数：2014年度の係数を使用</p> <p>(2010年度からの増減率：△40%)</p> <table border="1"> <caption>二酸化炭素排出量 (t-CO<sub>2</sub>)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>電力</th> <th>車両燃料</th> <th>重油</th> <th>灯油</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2010</td> <td>430</td> <td>257</td> <td>35</td> <td>25</td> <td>747</td> </tr> <tr> <td>2011</td> <td>375</td> <td>241</td> <td>11</td> <td>24</td> <td>645</td> </tr> <tr> <td>2012</td> <td>272</td> <td>224</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>504</td> </tr> <tr> <td>2013</td> <td>257</td> <td>224</td> <td>8</td> <td>2</td> <td>492</td> </tr> <tr> <td>2014</td> <td>207</td> <td>224</td> <td>12</td> <td>3</td> <td>446</td> </tr> </tbody> </table>	年度	電力	車両燃料	重油	灯油	計	2010	430	257	35	25	747	2011	375	241	11	24	645	2012	272	224	4	4	504	2013	257	224	8	2	492	2014	207	224	12	3	446	<ul style="list-style-type: none"> <li>電力と車両燃料に起因するCO<sub>2</sub>排出量が全体の97%を占めているため、これらをいかに抑制するかがポイントとなります。</li> <li>設備更新の際に、省エネ効果の高い設備を選定することでCO<sub>2</sub>排出量削減を果しました。</li> <li>「あと一步の改善」を後押しするため、イントラネットに「情報共有の場」を設け、社内各所の好事例が水平展開される環境を整えました。</li> <li>なお、当社が管理する九州電力社有林（約4,447ha）がもたらすCO<sub>2</sub>吸収・固定量は約100万tに及びます。</li> </ul>
年度	電力	車両燃料	重油	灯油	計																																	
2010	430	257	35	25	747																																	
2011	375	241	11	24	645																																	
2012	272	224	4	4	504																																	
2013	257	224	8	2	492																																	
2014	207	224	12	3	446																																	
電力消費量	<p>(2010年度からの増減率：△51%)</p> <table border="1"> <caption>電力消費量 (MWh)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>消費量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2010</td> <td>686</td> </tr> <tr> <td>2011</td> <td>597</td> </tr> <tr> <td>2012</td> <td>444</td> </tr> <tr> <td>2013</td> <td>421</td> </tr> <tr> <td>2014</td> <td>338</td> </tr> </tbody> </table>	年度	消費量	2010	686	2011	597	2012	444	2013	421	2014	338	<p><b>取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本店社屋における、省エネ効果の高い空調設備への更新を実施(本店電力消費量前年比：△20.3%)</li> <li>空調の適温化、照明の間引きや配置見直しなど</li> <li>電気機器類の不使用时の電源オフ</li> </ul> <p><b>分析</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>空調設備の更新については、設備管理箇所が環境負荷低減を念頭に投資対効果の検討を自発的に行うなど、改善意識の定着が確認されました。</li> <li>今回導入した高機能空調設備を十分に活用することにより、更なる電力消費量抑制を図ります。</li> </ul>																								
年度	消費量																																					
2010	686																																					
2011	597																																					
2012	444																																					
2013	421																																					
2014	338																																					
車両燃料消費率	<p>(2010年度からの増減率：+0.1km/l)</p> <table border="1"> <caption>車両燃料消費率 (km/l)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>消費率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2010</td> <td>12.4</td> </tr> <tr> <td>2011</td> <td>12.4</td> </tr> <tr> <td>2012</td> <td>12.6</td> </tr> <tr> <td>2013</td> <td>12.4</td> </tr> <tr> <td>2014</td> <td>12.5</td> </tr> </tbody> </table>	年度	消費率	2010	12.4	2011	12.4	2012	12.6	2013	12.4	2014	12.5	<p><b>取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>エコドライブ（ふんわりアクセル、渋滞回避の経路設定など）の徹底</li> <li>ダッシュボードへの注意喚起シール貼付</li> <li>低公害車への計画的な切替え（計5台）</li> </ul> <p><b>分析</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>エコドライブやシールの添付など、小さな工夫の積み重ねが目標達成に寄与したと考えています。</li> <li>今後も、機会を捉え取り組んでいきます。</li> </ul>																								
年度	消費率																																					
2010	12.4																																					
2011	12.4																																					
2012	12.6																																					
2013	12.4																																					
2014	12.5																																					
上水使用量	<p>(2010年度からの増減率：△40%)</p> <table border="1"> <caption>上水使用量 (m³)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>使用量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2010</td> <td>1,535</td> </tr> <tr> <td>2011</td> <td>1,358</td> </tr> <tr> <td>2012</td> <td>975</td> </tr> <tr> <td>2013</td> <td>930</td> </tr> <tr> <td>2014</td> <td>917</td> </tr> </tbody> </table>	年度	使用量	2010	1,535	2011	1,358	2012	975	2013	930	2014	917	<p><b>取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>トイレ・給湯室へ使用抑制の注意喚起シール貼付</li> <li>トイレへの携帯型消音機の設置</li> <li>ポットの余り水の有効活用（掃除用水、植物用水）</li> </ul> <p><b>分析</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>木材乾燥機の止水センサーの故障による漏水（83m<sup>3</sup>）や台所・トイレ等水周りでの漏水が、計3箇所で発生しましたが、配水管の設置状況を十分に把握していたため、早期発見により最小限の被害で留めることができました。</li> <li>全社の節水活動は定着しており、今後も継続していきます。</li> </ul>																								
年度	使用量																																					
2010	1,535																																					
2011	1,358																																					
2012	975																																					
2013	930																																					
2014	917																																					



(続き)

環境負荷の推移		2014年度の主な取組み・分析	
一般廃棄物発生量(紙類以外)	<p>(kg)</p> <p>(年度)</p> <p>2010 2011 2012 2013 2014</p> <p>3,903 3,661 3,178 3,301 1,759</p> <p>目標 2,300kg</p> <p>(△55%)</p>	取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物発生の原因となるモノの持込抑制（マイ箸・水筒などの活用）</li> <li>やむを得ず発生した一般廃棄物の適正処理</li> </ul>
		分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>2014年度は、水産事業における斃死魚が少なかったことから、発生量は大幅に減少しました。</li> <li>取組みのベースとなる持込抑制や事務用品の長期使用などに、引き続き取り組んでいきます。</li> </ul>
産廃リサイクル率	【オフィス・工場】	取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>分別の徹底</li> <li>3S活動の実施</li> <li>マニフェストの適正な運用および適正処理確認の徹底</li> </ul>
	<p>(年度)</p> <p>2010 2011 2012 2013 2014</p> <p>100.0% 92.5% 99.9% 96.8% 97.2%</p> <p>目標 95%</p>	分析	<p>〔オフィス・工場〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発生量 447 t に対するリサイクル量は 434 t</li> <li>リサイクルできなかったものは、古くなった机など分別が困難な混合ゴミや農薬容器など、全てやむを得ない理由のものでした。</li> <li>引き続き内部監査も活用し、適正処理をサポートします。</li> </ul>
	【現場】	取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子カタログ購買システムを活用したグリーン購入の徹底</li> </ul>
	<p>(年度)</p> <p>2010 2011 2012 2013 2014</p> <p>100.0% 100.0% 85.7% 91.7% 98.6%</p> <p>目標 95%</p>	分析	<p>〔現場〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発生量 1,061 t に対するリサイクル量は 1,046 t</li> <li>リサイクルできなかったものは、委託業者にサーマルリサイクル設備がなかったものや、汚れがひどい廃プラ類や農薬容器などであり、全てやむを得ない理由のものでした。</li> <li>引き続き内部監査も活用し、適正処理をサポートします。</li> </ul>
事務用品グリーン購入率	<p>(年度)</p> <p>2010 2011 2012 2013 2014</p> <p>94.8% 97.1% 97.0% 98.6% 98.1%</p> <p>目標 95%</p> <p>(+3.3%)</p>	取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子カタログ購買システムを活用したグリーン購入の徹底</li> </ul>
		分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当者の認識不足による「非グリーン商品」の購入事例がありましたが、取組みは定着化しているため、機会を捉えた注意喚起を徹底していきます。</li> </ul>

## (6) マテリアルバランス

資源投入量	エネルギー資源投入量			建設資材投入量			
	電力	338	MWh	木材	39	m <sup>3</sup>	
	燃料 (ガソリン)	73,832	ℓ	生コンクリート	93	m <sup>3</sup>	
		(軽油)	20,050	ℓ	建設発生土	297	m <sup>3</sup>
		(灯油)	1,161	ℓ	化学物質投入量	65	kg
		(A重油)	4,550	ℓ			
		水資源投入量					
	上水	917	m <sup>3</sup>				
	紙資源投入量						
	コピー用紙 (A4 換算)	82	万枚				
トイレットペーパー	672	ロール					

事業活動	緑化事業		森林管理事業 (造林・木材・水産)	
				
	古紙リサイクル量 2,812 kg		産業廃棄物リサイクル量	
一般廃棄物リサイクル量 (紙類以外)		オフィス・工場 434,330 kg		
オフィス・工場 1,052 kg		現場 1,046,268 kg		
現場 1,038,641 kg				

環境負荷量	CO <sub>2</sub> 排出量排出量 446 t-CO <sub>2</sub>			一般廃棄物処分量		
	電力	207	t-CO <sub>2</sub>	オフィス・工場	707	kg
	車両	224	t-CO <sub>2</sub>	現場	64,325	kg
	その他燃料	15	t-CO <sub>2</sub>	産業廃棄物処分量		
	総排水量 <sup>※5</sup>	848	m <sup>3</sup>	オフィス・工場	12,697	kg
				現場	15,122	kg

※5 水資源投入量に対する総排水量の減少：木材乾燥機稼動時の蒸発によるもの

## (7) 環境会計

### ■環境活動コスト

環境活動の分類	計上内容	金額 (百万円)
公害防止	浄化槽メンテナンス費用・法定検査手数料、清掃費用他	0.17
CO <sub>2</sub> 削減	本店建屋の空調設備入替えに伴う新規リース料 ハイブリッド車導入に伴うリース料差額	1.03
資源循環	一般廃棄物および産業廃棄物のリサイクル費用	14.52 <sup>※6</sup>
グリーン調達	事務用品グリーン購入費用（総額としています）	1.23
社内外教育	環境関連社外講習費用、社内教育(業務支援)費用、環境関連図書費	1.63
EMS 構築・運用	EA21・FSC・COC審査費用、運用に係る人件費他	4.05
生物多様性保全	希少植物の保全活動に係る人件費	0.16
地域貢献活動	緑ふれあい運動プランター作成費用、ボランティア活動人件費他	1.20
情報発信	ホームページ運営費用、環境活動レポートの配布に係る印刷費用	0.14
合 計		24.13

※6 樹木伐採工事に伴い発生した木屑（産業廃棄物）のリサイクル費用が約9割を占めます。

### ■主要項目における経費削減効果

項目	サイト分類	使用量			金額(千円)		
		2013年度	2014年度	増減	2013年度	2014年度	効果
電力	オフィス・工場	421MWh	338MWh	▲ 83MWh	9,262	7,427	▲ 1,835
	現場	1MWh	6MWh	5MWh	20	134	114
	計	422MWh	344MWh	▲ 78MWh	9,282	7,561	▲ 1,721
車両燃料	オフィス・工場	93,913ℓ	93,882ℓ	▲ 31ℓ	14,763	14,750	▲ 13
その他燃料	オフィス・工場	1,183ℓ	5,711ℓ	4,528ℓ	121	558	437
水道	オフィス・工場	929m <sup>3</sup>	916m <sup>3</sup>	▲ 13m <sup>3</sup>	396	390	▲ 6
合 計					24,561	23,259	▲ 1,302

※上記金額の算定に際し、電力・水道については、本店の2014年度使用料の年間平均単価を使用、ガソリン・軽油・灯油については、資源エネルギー庁公表の2014年度九州地区平均単価を使用しています。

## 4 森林管理事業における生物多様性への取組み（基盤づくり）

### (1) ガイドラインの策定

これまで、九州電力社有林の育成管理事業の中で、生物多様性保全に関する活動を行ってきましたが、活動データの体系化は十分に行われていませんでした。

2014年度は、今後の活動の展開を見据えた基盤づくりの年と位置付け、データ取得に当たっての、手順・手法・スケジュールなどを取りまとめた「生物多様性保全ガイドライン」を策定しました。今後は、これに基づき蓄積されたデータの分析・評価を行い、「生物多様性宣言」に備えていきます。

#### 【生物多様性保全ガイドライン概要】

活動項目	取組み内容
希少植物の保全	〈定期的なデータ収集およびマッピングによる希少植物の適正管理〉 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定点写真観測</li> <li>・ コドロード法による定点植生調査</li> <li>・ 希少植物保護巡視活動</li> </ul>
業務が生物多様性に及ぼす影響の低減	〈各作業項目別チェックリストの充実・活用による生物多様性への配慮・対策の実施〉 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ チェックリストを用いた現場確認による生物多様性への配慮実施</li> </ul>

### (2) 「環境活動の場」の整備

#### ■ これまでの整備内容

九州電力社有林内の山下池周辺（阿蘇くじゅう国立公園特別地域）に位置していた、当社養魚場設備の撤去および原状復旧に当たっては、設計段階から検討を重ね、自然景観と生物多様性へ可能な限り配慮し、裸地部には芝を張らず在来種の自然侵入促進型の緑化工法を採用するなど、より自然溪流に近い状態での復元を行いました。

（2014年12月工事着手、2015年5月竣工）



#### ■ これからの整備内容

地域の方々や自然保護に関心の高い方々のご意見をいただきながら、将来的には、多くの世代が集い、自然と触れ合いながら学べ、多様な生き物が棲む緑豊かな溪流となるよう、環境整備を進めていきます。



### (3) 環境活動の推進

当社は、これまでも、小学生など次世代層や企業新入社員を対象とした数多くの環境学習や環境活動に継続的に取り組んできました。

こうした活動に併せ、参加者にも山下池周辺「環境活動の場」を整備していく過程を体験してもらうことにより、持続的に共有価値を創造していきたいと考えています。



森林観察会でのひとコマ  
(林業部副長・山田カ也)



「環境活動の場」の整備に向けた関係者との検討  
(林業部長・松尾正信、担当・馬場純子)

### (4) 九州電力社有林の適正管理

当社は、2002年、他社に先駆け、森林の持つ大切な機能に応じて区分管理を行うゾーニング施業管理を導入し、持続可能な森林経営を目指しつつ、2005年には、適切な森林管理が行われていることを認証する世界的な制度「FSC®森林管理認証」を取得し、決められた枠組みの中で生物多様性への配慮にも関わってまいりました。

近年の異常気象がもたらす、台風・豪雪による立木被害や集中豪雨による土砂流出など、森林へのダメージに対し、迅速かつ効果的な対策を講じ、治山機能の保全や動植物の生育環境確保に取り組んでいます。

なお、罹災した被害木については、環境負荷低減の観点から、木質バイオマス発電用燃料として材の有効活用も図っています。



台風による被害を受けた社有林材



罹災した被害木の伐採とバイオマス燃料としての搬出

## 5 地域との環境コミュニケーションの推進

### (1) 「大分県小規模集落応援隊」への参加

この活動は、高齢化と過疎化により、共同作業が困難となった小規模集落に対し、近隣企業やNPO、ボランティア団体と協働で集落のニーズに適った作業を行うもので、活動5年目を迎えました。継続的な取組みが評価され、4月には地元テレビで当社の活動が紹介されました。

2014年度も社員5名が参加し、湯布院町奥江地区において、農業用水路の浚渫及び倒木の伐捨処理を実施しました。地元の方々と一緒に汗を流した後の懇談や「大変助かった、また来て欲しい」の一言に、お役に立てた喜びを実感しています。



水路に堆積した枝葉の除去  
(林業部担当：江藤勝憲)



チェーンソーでの倒木処理  
(林業部担当・日野春海)



奥江地区のみなさまとの懇談会

### (2) 施設管理を通じた環境コミュニケーションイベント

当社は現在、指定管理者として公共施設5箇所を管理しており、長年培ってきた環境保全技術を活かした多彩な環境コミュニケーションイベントを開催しています。

特に、福岡市「かなたけの里公園」では、里山保全活動を体験する「里山ボランティア」や、地域の歴史や文化、自然環境を学ぶ「里山ハイキング」を通して、地域の方々の協力を得ながら、里山の知恵と恵みを伝えることをテーマに施設運営を行なっています。

また、当該施設では、生物多様性に配慮した環境づくりにも力を入れており、希少種の保全活動や季節ごとの自然観察会などのイベントを開催し、多くの方々に体験と学びの場を提供しています。



里山保全ボランティア



福岡県の希少種に指定されているニホンアカガエルの生態の観察と水辺の保全活動の実施



里山ハイキング

### (3) 「林業の魅力伝えるパネル展」への参加

2014年5月、映画「WOOD JOB!」の公開に合わせ、地元映画館にて開催された、大分県の林業をPRする企画「WOOD JOB! ×GOOD JOB! <映画館ジャック>」に参加し、ここで開催されたパネル展において、当社林業部員の生の声を発信することで、森林管理の大切さや魅力を広くPRしました。

また、この後、映画鑑賞者を対象に募集した「九州電力社有林への散策会」において講師を務め、森の中での講話や当社社員による伐採実演を行いました。



「大分の柚人からのメッセージ」  
当社林業部員からも多数のメッセージを送っています



散策会  
(林業部 G 長・日野真文)

### (4) その他の取組み

#### 緑ふれあい運動

当社創立60周年を記念して、2009年から全社一斉に、地元の養護福祉施設などへフラワーボックスを寄贈しています。

(2014年度は、計26箇所に寄贈)



フラワーボックス寄贈



フラワーボックスづくり

#### 清掃活動の実施・参加

地域貢献活動の一環として、事務所周辺や当社が指定管理者として運営する公共施設周辺の清掃活動や社外主催の清掃活動へ積極的に参加しています。

(2014年度は、計37回、延べ92名が参加)



公園清掃



河川清掃

## 6 2015 年度目標、活動計画

	全社共通項目	単位	目標	活動計画	
1 低炭素社会への貢献	二酸化炭素排出量	t-CO <sub>2</sub>	391	<ul style="list-style-type: none"> <li>空調の適温化(冷房 28℃程度、暖房 19℃程度)の徹底</li> <li>パソコン・プリンタ等の不使用时電源オフの徹底</li> <li>始業前、昼休み、残業時等における不必要照明の消灯</li> <li>照明の間引き及び配置見直しの実施・維持</li> <li>エレベーターの使用抑制及び階段利用の促進</li> <li>車両更新時における低公害車への計画的切替えの実施</li> <li>エコドライブの確実な実施</li> <li>手洗場への注意喚起シールの貼付及び日頃からの節水作業の励行</li> </ul>	
	電力消費に伴う CO <sub>2</sub> 排出係数		0.613 <sup>※7</sup>		
	電力消費量	MWh	291		
	車両燃料消費率	km/ℓ	12.4		
	上水使用量	m <sup>3</sup>	860		
2 循環型社会への貢献	一般廃棄物発生量 (紙類以外)	kg	1,500	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般廃棄物発生抑制及び分別徹底によるリサイクル促進</li> <li>古紙リサイクル率の維持・向上</li> <li>産廃の分別徹底によるリサイクル率の向上及び適正処理の適宜実施</li> <li>産廃マニフェストの適切な運用及び適正処理確認の徹底</li> <li>機密文書、使用済蛍光管及び乾電池のリサイクルの実施</li> <li>社内イントラ活用、裏面利用等によるペーパーレス推進</li> <li>電子カタログ購買システムによる事務用品グリーン購入</li> <li>事務用品以外も極力環境ラベル認定品の購入を実施</li> </ul>	
	産 廃 リサイ クル率	オフィス・工場	%		95
		現 場	%		95
	事 務 用 品 グリーン購入率	%	95		

※7 電力消費に伴うCO<sub>2</sub>排出係数：公表値の更新に合わせ随時置き換え

	主な個別項目	単位	目標	活動計画	
3 自然共生社会への貢献	緑化工事受注件数	件	200	・緑化工事の推進により緑豊かな社会に貢献する。	
	間伐材有効利用率	%	44	・間伐材の有効利用に努め循環型社会の形成に貢献する。	
	生物多 様性へ の取 組み	希少種の 保全活動	・定期的なデータ収集及びマッピングによる希少種の適正管理 (定期的な植生確認及び確認結果の記録・分布図作成)		
		生物多 様性に 与える影 響の低 減活 動	・各作業項目におけるチェックリストの充実・活用による生物多様性への配慮・ 対策の実施(林業部) ・生物多様性配慮事例の蓄積・集約及び発注者への提案可能性検討・展開 (緑化部)		
	化学物質使用量 の削減	・化学物質の使用にあたっては周辺環境への影響を最小限に留めると共に使用 する化学物質の種類についても代替物質の活用などにより極力PRTR 制度対 象物質の使用を抑制するよう努める。			
4 社会との協調	〈環境コミュニケーションの推進〉				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境レポート内容充実、ホームページ等での公開</li> <li>協力会社やお客さまへ配布し積極的に活用する。</li> </ul>				
5 環境管理の推進	〈地域における環境活動の推進・地域貢献環境活動の展開〉				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>山林見学など体験学習の開催</li> <li>清掃活動、植樹活動などのボランティア活動への積極的な参加</li> </ul>				
5 環境管理の推進	〈EMS の自立的な運用に向けた取組み〉				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>内部監査(運用業務支援)の実施</li> <li>環境法規等の特定および遵守評価の実施</li> </ul>				
5 環境管理の推進	〈環境教育の実施及び環境情報の共有化〉				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>九州電力主催の各種教育への積極的な参加、社内環境勉強会の検討・実施</li> <li>イントラネットを活用した環境情報の共有化</li> </ul>				



## 7 環境関連法規等の遵守状況

当社事業活動に関する環境関連法令などの遵守状況を確認した結果、過去3年間、違反はありませんでした。また、関係機関などからの違反などの指摘や利害関係者からの訴訟もありませんでした。

該当する主な法規制	主な遵守内容
フロン回収破壊法	<ul style="list-style-type: none"> <li>フロン類の大気への放出禁止</li> <li>フロンの適正・確実な回収及び排出抑制の適正措置の実施</li> </ul>
家電リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定家電用機器の長期間使用に努める。</li> <li>廃棄する場合、再商品化等を行う者に適切に引渡し、料金を支払う。</li> </ul>
廃棄物処理法	<ul style="list-style-type: none"> <li>保管基準、委託基準、処理基準の遵守</li> <li>マニフェストの交付・管理及び行政への報告</li> <li>下請業者による運搬</li> </ul>
循環型社会形成推進基本法	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物発生抑制の措置</li> </ul>
建設リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> <li>再資源化等の実施状況に関する記録・保存</li> <li>特定建設資材廃棄物の再資源化等を完了した時の工事発注者への書面報告</li> </ul>
資源有効利用促進法	<ul style="list-style-type: none"> <li>再生資源及び再生部品の利用</li> <li>事業に係る製品の長期利用及び再生資源の利用促進</li> </ul>
グリーン購入法	<ul style="list-style-type: none"> <li>物品購入における可能な限りの環境物品の購入</li> </ul>
包装容器リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> <li>再使用可能な容器包装の使用</li> <li>容器包装の抑制・再商品化</li> </ul>
騒音規制法	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定騒音発生施設の設置</li> <li>指定地域内での特定建設作業を伴う建設工事施工時の届出</li> <li>規制基準の遵守</li> </ul>
振動規制法	<ul style="list-style-type: none"> <li>振動発生施設の設置・変更時の届出</li> <li>振動防止方法の届出</li> <li>規制基準の遵守</li> </ul>
浄化槽法	<ul style="list-style-type: none"> <li>浄化槽設備の設置・変更の届出、着手日遵守</li> <li>浄化槽管理者の選任</li> <li>使用開始報告書の提出</li> <li>未処理水の放流禁止</li> <li>指定検査機関による水質検査の実施</li> </ul>
建築基準法	<ul style="list-style-type: none"> <li>敷地の衛生及び安全の遵守</li> <li>国土交通大臣の定める建築材料の使用</li> </ul>
消防法	<ul style="list-style-type: none"> <li>住宅用防災機器、消防用設備の設置と維持</li> <li>消防用設備の届出・点検・報告</li> </ul>
PRTR法	<ul style="list-style-type: none"> <li>排出量・移動量の把握・届出</li> </ul>
地球温暖化対策の推進に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> <li>温室効果ガス排出量の報告 (全事業所の原油換算エネルギー使用量の合計が1,500kℓ/年以上の場合)</li> </ul>
森林法	<ul style="list-style-type: none"> <li>主伐・間伐に関わる行政の許可・通知・届出</li> </ul>
自然公園法	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定地域内における主伐・間伐時の許可申請書提出</li> </ul>
生物多様性基本法	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物多様性への影響把握・配慮・低減・持続可能な利用</li> </ul>

## 8 代表者による全体評価と見直しの結果

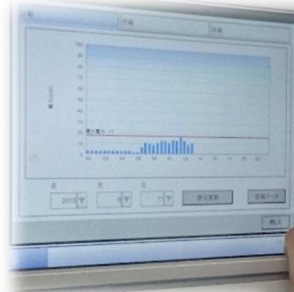
- 環境活動に対する取組みについては、概ね年度目標を達成しています。過去5年間の推移を見ても、取組みが順調に進展し、定着していることが確認されます。
- こうした取組状況を踏まえた目標設定に加え、改善好事例の社内共有化により、目標の実効性を高める工夫も試みています。
- 2014年度は、事業活動と環境活動の一体化に向けた基盤づくりの年と位置付け、「生物多様性保全ガイドライン」及び「生物多様性宣言」の策定を目標としました。宣言には至らなかったものの、現場での目線を十分に織り込んだガイドラインを作り上げたことを評価しています。
- 今後の宣言に備え、ガイドラインに基づくデータの蓄積・分析、何よりも、「環境活動の場」の整備を進め、我々が目指す“社会ニーズを汲み取った環境価値”が提供できるよう、取組内容の充実にはチャレンジしてください。
- 引き続き、環境活動全体を支える者として、やりがい・働きがいを感じることができる企業風土づくりで応えていきます。

代表取締役社長 長 宣也

## 9 その他環境関連活動

### (1) オフィスにおける日常的な取組み

本店建屋における空調設備を氷蓄熱ユニット（HCFC 冷媒）から節電効率の高いビルマルチエアコン（HFC 冷媒）に一新しました。  
中央制御によるピークカットや各部屋ごとの稼働データの取得により、効率的な運転ができるよう、取り組んでいます。



稼働データのグラフ化による改善ポイントの見える化

### (2) 緑を通じた地域社会への貢献

電力設備や高速道路の緑化工事、都市公園整備工事、緑地の維持管理など、「緑」を通じて地域社会に貢献しています。



送電線鉄塔敷地保全対策工事施工例



高速道路の造園工事施工例

### (3) 自然環境の保全

#### 平治岳除伐活動

九州電力社有林内にある平治岳（国立公園特別保護地区）には、絶滅危惧種であるミヤマキリシマが自生しています。

しかし、近年このミヤマキリシマがノリウツギなどの他樹種に被圧され、減少傾向にあるため、地元の保護団体が主催する、他樹種の伐採によるミヤマキリシマの保護活動に毎年参加しています。

（2014年度：合計2回、延べ6名が参加）



2011年撮影

2014年撮影

#### くじゅう登山道巡視

環境省からの業務委託を受け、くじゅう登山道の巡視・修復作業を行っています。

また、登山道上に生えたミヤマキリシマの露出した根の保護など、希少種保全を併せて実施しています。

（月に1度の頻度で実施）



### (4) 環境活動レポートの活用に向けた取組み

2013年度の環境レポートでは、会社案内の代わりとしても使えるように、読みやすさと分析評価結果の充実という一見相反する事項の両立を図り、「手に取りやすく、最後まで読んでもらえること」に重点を置いて作成、可能な限りコンパクト化に努めました。

これらの努力が評価され、NPO法人九州環境カウンセラー協会主催の「環境活動レポート大賞・九州」において、九州環境カウンセラー協会特別賞を受賞しました。



### (5) 社内環境教育の展開

#### うちエコ診断の受診と感謝状の受領

うちエコ診断とは、環境省の主催で家庭での省エネ推進を目的に各県内在住者を対象に、無料で実施しているものです。2014年度は、当社から13名の社員が受診し、福岡県地球温暖化防止活動推進センター様より感謝状をいただきました。



#### 内部監査（運用業務支援）の実施

環境活動における運用状況確認のため、事務局が各所へ出向き、必要に応じてフォローを行うとともに、法改正や活動計画の変更点の周知などを実施しています。

（2014年度：5箇所実施）



福岡営業所での実施

熊本営業所での実施

(続き)

### 社内スクール（九林イノベーションスクール）の開催

環境保全に関わる政策動向や環境保全技術を学び、効果的な業務改善活動を展開するため、定期的な社内勉強会を開催しています。

2014年度は、「街路樹の倒木リスク管理」や「林地残材の有効活用」などをテーマに開催し、計6回、132名が参加しました。



同年度に実施した公園整備工事においては、「街路樹の倒木リスク管理」で学んだ知識を、園内既存木診断において活用し、内部空洞化（腐朽）率に基づく“倒木リスクの見える化”を行いました。環境保全（不要な伐採を回避）と公園管理側のリスク管理との両立を図りました。



公園内既存木サクラ



樹木内部診断



内部腐食状況



九州電力・山下池社有林（水源の森百選）